



1 <成果指標と実績>

<成果指標と実績>					
成果指標		初期値	R5年 目標値	R3年 実績(評価)	R4年 実績(評価)
① 「家庭学習の中心」が「自分で必要と判断した学習」である生徒の割合	1年	39.7%	50%	35.9%(F)	22.1%(F)
	2年	28.2%	60%	31.6%(E)	26.1%(F)
	3年	76.5%	80%	76.5%(-)	82.0%(A)
② 1週間の家庭学習時間の平均	1年	9.7h	12.0h	8.6h(F)	12.4h(A)
	2年	11.7h	14.0h	12.7h(C)	11.3h(F)
	3年	27.0h	30.0h	27.0h(-)	28.4h(C)
③ 自ら進んで授業に取り組む生徒の割合	1年	45.4%	50%	39.7%(F)	35.4%(F)
	2年	32.3%	60%	32.9%(E)	40.0%(D)
	3年	47.5%	70%	47.5%(-)	60.7%(C)
④ 授業内容等に興味があつて学校を選じた生徒の割合		23.0%	R6年 50%	R4年 8.5%(F)	R5年 %()

2 <年間の取組報告>

榛原高校は、静岡県の本指定及び文部科学省委託事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の指定（令和元～3年）を受け、地域と連携した教育活動を通して「地域についての認識を深め、グローバルな視野を併せ持つ生徒の育成」を目標として活動に取り組む「HAFプロジェクト」(Haibara Achieving Futures Project) を推進してきた。希望者が参加する課外活動が多く、目標を広く達成していくために、さまざまな活動を教育課程内に位置付け、組織的・体系的に学校全体の取組としていくことが課題であった。

令和3年度から学校設定教科「地域創造探究」を新設して2年目となる本年度は、昨年度に引き続き、課外活動を教育課程内に取り込んだ学習プログラムの開発や、活動の振り返りや評価方法の研究を行った。コロナ禍の制約下、可能な限りの取組を行い、成果をあげることができた。

3 <特徴的な取組>

(1) オンリーワン・ハイスクール（グローバル・ハイスクール）事業の推進・運営

HAFプロジェクト推進会議と学校運営協議会において、オンリーワン・ハイスクールにおける取組について協議、評価を行った。学術機関、地元企業、行政関係者等からの指導助言に加え、生徒の研修等の課外活動について協力・支援を受けることで、組織的・体系的指導を行うことができた。

(2) 学校設定教科（科目）のプログラム開発、探究活動の実践及び評価方法についての研究

今年度から、2年生を対象とした「地域創造探究Ⅱ、Ⅲ」、2年生選択者対象の「発展地域創造探究」（今年度は23人が選択）がスタートし、カリキュラム開発及び評価方法の研究を行った。

「地域創造探究Ⅱ」では、自分の志望分野や1年次の探究テーマ、地域や社会に関する諸課題などから自分の興味関心のある内容について各個人が設定したテーマで探究活動を行った。最初に、HAFプロジェクト推進委員である、静岡大学教育学部島田桂吾准教授にあらためて探究活動の意義や進め方について、御指導いただき、探究活動を開始した。

「地域創造探究Ⅰ」については、2年目となる今年度も、継続して年間指導計画やルーブリック表の見直し、評価方法についての検討を行った。



地域の企業を訪問



中間発表



台湾の高校とオンライン交流



イングリッシュキャンプ

(3) 学校設定教科「地域創造探究」の実施

ア 地域の人材を活用した取組

- ・ファシリテーター「CLIP」による対話とグラフィック研修
- ・NPOによる探究ガイダンスとミニ探究活動
- ・牧之原市長講話
- ・行政職員、NPO法人、事業主などによるテーマ別講話

イ 地域企業との連携

地域創造探究Ⅰ：各探究グループの企業訪問担当約40人が、「矢崎ものづくりセンター・静岡空港」コースと「ヤナギハラメカックス・株式会社ヤマザキ」コースに分かれて各企業を訪問した。工場見学、事業内容の説明、企業理念、これからの企業のあり方などについて学んだ。

発展地域創造探究：矢崎ものづくりセンターを訪問し、工場見学や企業の海外進出について等を学んだ。また、海外勤務経験者などを学校に招き、企業のグローバル展開や求められる人材などについて、グループ別研修を行った。

(4) グローバル研究

ア グローバルな視野と国際感覚を育成ため、オンラインを活用した英語によるコミュニケーション活動を実施した。

発展地域創造探究の授業で、台湾の国立宜蘭高級商業職業学校とのオンライン交流を実施した。4グループに分かれ、英語によるプレゼンテーション及びディスカッションを行った。

イ 海外研修の代替として南九州研修を実施して、1、2年生11人が参加した。

(5) 地域リーダー育成プロジェクトへの参画

牧之原市が主催する「地域リーダー育成プロジェクト」に、1・2年生52人が参加した。

(6) 外国語による言語活動の充実及び異文化理解の推進

イングリッシュキャンプを8月に3日間の日程で、国内在住の13人のネイティブ・スピーカーを講師として学校に招き実施し、69人の生徒が参加した。

(7) 高大連携の実施

早稲田大学、山形大学の教授を講師に招いてのキャリアデザイン講演会を実施した。

連携協定を結んでいる静岡大学教育学部の講義を本校7人の教員が聴講し、研修した。

4 <成果と課題>

令和3年度から学校設定教科「地域創造探究」を設置することにより、体系的に活動を積み重ね、適切な評価を行うことによって「自ら課題を設定し、他者と協働してより良い解決に向け主体的に判断し、表現する力を身に付ける生徒」の育成に取り組んでいくことを実践して、一定の成果をあげることができたと考えている。地域の外部人材を活用した対話を重視した活動を通して、生徒たちは協議するスキルやコミュニケーション能力を身に付け、校外外でのさまざまな学習成果発表会等の経験を重ねることにより、思考力、表現力を高め、リーダーとしての資質を育成することができた。

今後の課題は、そうした生徒の学習活動をいかに継続させ、そしてどのように深い学びに繋げていくかということにある。次年度以降、学校設定教科（地域創造探究）実施・推進組織の改善、学校設定科目（地域創造探究Ⅲ、発展地域創造）の設置及び評価方法の修正、学習プログラムの開発及び検証、パートナーシップで課題を解決するための課題発見と課題解決型学習の実践を計画的に実施していくことで、継続して成果をあげていきたい。



地域リーダー育成PJ グローカル部
宮崎市内フィールドワーク 宮崎ブーゲンビリア空港講話



南九州研修

地域を、世界を、変える人になる
↑ 確かな学力 and グローカル探究活動 with 生徒個人端末活用 ↓

【普通科】= 学校設定科目(総合的な探究の時間)代替		※【理数科】1年:総合的な探究の時間、2年:理数探究	
目的(育てる力)	卒業・専攻	目的(育てる力)	卒業・専攻
・地域創造探究Ⅰ 地域社会の課題や現状について実践的に学び、協働的な活動を通じて、グループにより探究活動の基礎を学ぶ。学年発表会等	フアンリテーション講座 専攻講話 探究実践講話 グループ探究活動 クラス・学年発表会 等	・地域創造探究Ⅱ 1での経験を活かし、個人の課題・関心について、より深い探究活動を行うとともに、自分の進路・キャリアと結び付ける	探究実践講話 各科目計画する探究活動 フィールドワーク(※旅行、企業、地域、修学旅行等) キャリアデザイン講話 等
・地域創造探究Ⅲ 1・2の学びを踏まえて、自己のキャリア、地域の社会づくりへの貢献などを考える	自己探究活動 自己キャリア研究 論文等作成 等	・発展地域創造探究(2年生自由選択) グローバルな探究活動を行い、グローバル感覚と外国語能力を伸ばす	グローバル研修(含オンライン) ※英検部品連携 個人・グループ探究活動 英語プレゼン 等
【授業外】【普通科:理数科希望者】	= 課外での課題解決型学習: 活動 → 発表: プロジェクトでのリーダーの育成	【授業外】【普通科:理数科希望者】	= 課外での課題解決型学習: 活動 → 発表: プロジェクトでのリーダーの育成
・地域創造探究Ⅰ プラス 実社会とのつながりを考えながら、地域の企業の真実やグローバル基礎を学ぶ	▽企業フィールドワーク(地域の企業訪問 8月) ※関係機関の協賛・希望者 4社2コース	・グローバル研究 国際的視野を持った知識・理解・考察・探究する態度を身に付ける	海外研修 国内研修(12月 南九州 1・2年) オンライン交流(台湾等) 北大・札幌関連連携講座
・地域創造探究Ⅱ 英語によるコミュニケーション力	イングリッシュキャンプ(8月) 英検特級促進	・地域創造探究Ⅲ 地域の人と協働、地域貢献する態度	※英文科併修者「イングリッシュ」研修等
・グローバル部(部活動)	地域・国際的課題の解決策の実践、探究	・グローバル部(部活動)	地域・国際的課題の解決策の実践、探究

1 支援・協力 学校運営協議会 + HAFプロジェクトアドバイザー 1

令和5年度 HAF プロジェクト計画概要

成果発表等 県内外の探究活動発表会、SGH 関係会議、校内発表会(関係者・地域・保護者に案内) 等